



左官職人の中村一夫さん（中央）からなまこ壁の下塗りを学ぶ体験プログラムの参加者

伝統的な街並みを後世へ。松崎町が町観光協会や町商工会、住民団体などと一体となり、「漆喰（しつくい）文化次世代継承事業」と銘打ったなまこ壁建築の伝承に乗り出した。左官体験などを通じ、町民になまこ壁の価値を再認識してもらう取り組み。景観計画の周知など情報発信に力を入れ、景観保全の機運醸成を目指している。

## 行政、観光協など 一體

# 松崎伝統「なまこ壁」

# 街並みの未来 町民が担う

29、30日 松崎で全国左官職人「W杯」

松崎町や町観光協会など関係団体による実行委が29、30の両日、観光庁の助成を受け、なまこ壁の文化や技術継承に向けたイベント「SAKANアートワールドカップ」を町内で初めて開く。「漆喰(しつくい)文化次世代継承事業」の一環。日本左官業組合連合会推薦の全国各地の左官職人を迎えて行う、なまこ壁建築のデモンストレーションがメイン企画。このほか、漆喰鑲絵(こてえ)の名鑑を交えた「動説」を披露したり、専門家が漆喰文化について講演したりと多彩な催しが繰り広げられる。

町役場で昨年12月中、町内の左官職人が指導するなまこ壁の体験プログラムが行われ、町民が下塗りの工程を学んだ。参加した土田時和さん(73)は「なまこ壁ははじめのあるものだが、実際に建築に携わると、この使い方が自体が難しく、奥深さを感じる」と作業に熱中した。町内のなまこ壁建築に関わる左官職人は現在2人に限られ、修繕を担う住民有志団体「蔵づくり隊」も人手不足が進む。職人の中村一夫さん(80)は「伝統を守るには住民の協力が必要。なまこ壁に触れ、保存活動に携わってくれる人を増やしたい」と指導に意欲を示す。体験は今年2月まで継続し、参加者は複数の工程を学んで1枚のパネルを仕上げる計画だ。町はなまこ壁保全を狙いの一つに、昨年9

月に景観計画と景観条例を施行した。計画には、観光施設だけではなく一般住宅も含め、なまこ壁などの歴史的な建造物を景観資産として登録する制度を定めた。今後は特に価値の高い建造物を重要資産に位置付け、保  
く。全に向けた補助制度の創設も検討していく。  
西風の強い地域柄で発達し、町の歴史とともににあるなまこ壁。昭和後期から平成にかけ、町内では橋の欄干改修が進み、「日本で最も美しい村」連合加盟の要素にもなった。  
町の担当者は「伝統を守っていくための再スタートの時。この事業を軸に、子どもへの文化の継承や人材育成により力を入れたい」と強調した。

# 漆喰技術継承へ体験会